

## 魚津ロータリークラブ会報誌

2015-2016年度 R I 会長 K.R. ラビンドラン

2015-2016年度 魚津RC会長 羽田 睦朗



第2986回 例会

2015-9-18

- 1、点鐘・握手
- 2、ロータリーソング 「我らの生業」
- 3、ゲスト並びにビジターの紹介 なし
- 4、誕生祝



・9月24日 平崎暉夫さん

74歳になります。私は100歳生きるとして、4つに分割しています。

1歳～20歳までを幼年期。21歳～40歳までを少年期。

41歳～60歳までを青年期。81歳～80歳までを壮年期。

81歳～老年期と捉えています。ですから、壮年期の前半を過ぎました。

クラブの皆さんと楽しく過ごさせています。ありがとうございます。



・9月25日 寺田祐子さんのご主人

9月24日が結婚記念日です。誕生祝とセットにしてお祝いしています。主人が今週、台湾の方から夏休みで帰って来ています。二人で食卓を囲んで、ささやかな幸せを感じております。

今後ともどうぞ、よろしく申し上げます。

皆さん、ありがとうございました。

### 5、会長挨拶(羽田会長)



・皆さん、こんにちは～。平崎君、寺田さんのご主人さんの誕生日、平崎君、寺田さんのご主人さんの誕生日おめでとうございます。

beter half ということで頑張ってくださいと思います。

・先日、幹事と一緒に広浜さんをお見舞いしました。順調に回復されていました。皆さんにご心配やご迷惑をおかけしています。

もう少し休ませて頂きますと伝言でした。

頂きますとのことでした。

・旋回の例会の後、緊急の理事会を開催致しました。結果については理事会報告を見て頂きたいと思いますが、「ロータリーの出席は義務です」ということについて複数の方に聞いてみました。「義務です」「義務でない」の両方のご意見がありました。しかし新入会員を歓迎するこの時期に、義務がありますという本当に入ってくれるのか心配です。出席の義務・罰則がついている訳でなく、私は努力義務と解釈しています。

出来るだけ出席して下さい。出来ない時はメイクアップをして下さい。どうしても出来なかった時、私はニコボックスで堪忍して頂きました。強制力のある義務ではなく、自分自身の努力義務であろうと思います。出席を頑張ってください。

### 6、幹事報告(川岸幹事)



・在来線対策協議会より、後援会のお知らせがきています。

・魚津市暴力団追放運動推進協議会より、第23回地区安全魚津大会の案内。

・9月例会案内です。9月28日の例会は野外例会です。

・9月のSAA補助は、大村さん、朝野さんです。

・地区大会が10月24日(土)指導者育成セミナー、RI会長代理歓迎  
夕食会で、クラブ会長、幹事、地区役員の参加です。

- ・10月25日(日)同じく白山市で、全会員対象の本会議・記念講演・大懇親会があります。  
9名の参加です。マイクロバスで一緒に行く予定です。皆さん楽しんできましょう。
- ・前回の臨時理事会の内容については、別紙にて確認願います。
- ・魚津RCと明記された石造・看板などを調査したいと思います。

#### 7、出席報告(仙丸委員長)

- ・2986回 本日の出席 24名、出席率は 82.75%。  
欠席 5名、メークアップ済はなしです。
- ・2984回のメークアップは中島さんでした。  
修正出席率は、89.65%でした。



#### 8、ニコボックスは無です。

#### 9、委員会報告

- ・谷川60周年記念誌委員会より、会員名簿・歴代会長の記事のチェックをお願いします。
- ・10月には完成致します。ご期待下さい。

#### 10、卓話 杉野芳宏さん テーマは「戦後70年に想う」です。



・今年には終戦70周年記念の年に当たります。  
国民の80%が戦後生まれと聞くと、今更と思う方も居るかも知れませんが、日本は昭和20年(1945年)8月15日ポツダム宣言を受託して戦争が終結しました。無条件降伏です。然も310万人からの人命と大きな大きな領土と権益を失い、何もかも零からの出発でありました。

- ・今更何を言っても始まらないが、振り返って見ると本当にアメリカを相手に戦争を挑まなければならなかったのか。そんなに切羽詰まり、どうにもならない状況にあったのか、検証してみる必要があるように思われてならない。私なりの思いであり考えです。
- ・思想的に相反するものではなかった。幾らでも話し合うことができた。今となっては一方的に侵略したように言われているが、寧ろアメリカ、イギリス、オランダの植民地になっている国々の資源が欲しかった丈で正常な取引を要求したが聞き入れてもらえず、それらの資源の獲得を計り進駐したままで、そこにたまたま其の国の支配者の軍隊が居たため小競合いはあったが、

すぐ納まり住民との融合もうまく行き、日本軍は解放軍として住民に迎え入れた所も多くありました。現地人と間には民政官が派遣され軍政が敷かれた訳でもなく、むしろ無血解放で独立を勝ち取ったようなものでアジアの各地では日本軍は解放軍の立場にあったのです。

\* イデオロギー(政治や社会に対する考え方)

\* 疎んじる(きらって遠ざける)

#### ・次に、米、英との関係

前述の如く思想も民主主義を保ち、考え方も大差はなかったのに何故戦争に発展する状況にまでになったのか。

日清、日露の戦争に日本が勝ち、軍備を拡張する日本を米・英・蘭は気になってならず、ロンドン軍縮条約なるものを押し付けて日本の軍備を制限する条約をむすばされて、日本は身動きできない状態になっている、と学校などで教えられた。子供心にそう信じていた。

- ・今考えると確かにそうであり、各国から日本、日本軍の存在は嫌われていたことであつたと思うが、何故その時、戦争という手段に訴えるのではなく、いつでもやるぞという刀をちらつかせながら、外交という手段を使わなかったのかということです。本音は双方戦いたくない。それならそれで外交という手で何時でもやる用意があるぞ、ということをちらつかせて交渉するだけの腹がなかったのかと思う。

- ・ところが行成り戦争に突入して終わったことが残念に思われてなりません。野村・来栖両大使がアメリカのハル国務長官からハルノート突き付けられ、日本はこれをアメリカの最後通告と受け止め戦争に踏み切る決断をしたことになっているが、あんなものは一種の掛け引き位に受け止め、太刀を振り上げて備えるまでで、振り下ろすことはなく、もっとねばり強く粘り強くノラリクラリと時間稼ぎをして、本国持ち帰り検討する位交渉を長引かせて少しでも有利な方向に導くという手を打てなかったのかと思うのであります。

- ・何もこちら(日本)から先に手を出すことはなかったと私は今になって思うのですが、世の流れというか魔がさしたというか、こちらから手を出して終わった。
- ・真珠湾攻撃。あれはまずかった。アメリカの罠に引っ掛かったようなもの、それが残念。
- ・アメリカ大統領ルーズベルトは日本から戦争を仕掛けて来ることを待っており、空母などの機動部隊を分散させ、古い古い戦艦を並べて日本に攻撃させ、世論を一挙に戦争へと持って行った。その深謀遠慮というか、先を読むうまさには感心させられる。
- ・一方日本では戦艦何隻を沈没させたと大勝利気分酔って浮かれてしまった。万歳万歳で戦勝気分浮かれてしまった。無敵海軍の大勝利とばかり騒ぎ立てた。一方米の虎の子の機動部隊は無傷であった。太平洋の何処かへ散っていた。
- ・それが次に来るミッドウエイの海戦で我が機動部隊は敵機動部隊と撃突し、空母四隻を含む大多数の艦船が沈められ大敗北を帰し、彼我の戦闘能力の差は互角から逆転し、各地で敗北、どうしようもない位にやられ放しとなり玉砕につぐ玉砕で、遂にサイパンまで取られそこを基地として、日本本土空爆だけを目的のために開発された超重爆撃機B-29なる途轍もない大きな高性能な爆撃機をサイパン、マリアナ諸島から大きな爆弾、焼夷弾を一杯積んで、日本本土を無差別に爆撃し焼き尽くし、遂には非人道的にも広島、長崎に原爆弾なるものを投下したのです。一発の爆弾で十数万人、人が死ぬなんていう破壊力ある兵器を平気で使用する感覚なんて日本人には考えられない行為だと思うのですが、戦争を早く終結させるための手段として用いたと言われれば、ハイそうですかと言わざるを得ない弱い立場に日本は立たされてしまっていたのです。勝てば官軍、負ければ賊軍。
- ・もう一つ忘れてはならないのはソ連です。日本とソ連の間には日ソ不可侵条約なるものが結ばれており、日本は戦争終結に当たり、ソ連国にその仲介の労を取ってもらうべく、その特使として近衛文麿元総理を派遣すべく準備をしていたのですが、来るに及ばずとの返事とほぼ同時に日本に対して条約があるにもかかわらず、満州や樺太、千島に進攻して来たのです。
- ・その時の様子を元内閣書記官長迫水常久氏が戦後、青年会議所で講演なさった録音盤を聞いたことがあります。国際間の約束ことなど、こうも簡単に反故にされるものかと情けないやら、悔しいやらと、涙ながらに語られたのを聞き、腹立しく思ったのであります。
- ・それから70年、未だ日本古来の領土、北方四島すら解決できない、戻さないロシアのやり口。漁業の制限など難題を押し付けられ、船は拿捕され、罰金を支払わされ、一方通行の行為に甘んじている日本の姿。何と情けないことかと思うのです。
- ・武力を持たない日本は、これらの行為に対して何一つ抗議すらできないのが現状です。漁業者の皆さんはどんな思いで此の現状を見ておられるのでしょうか。
- ・それに比すれば米軍の沖縄に対する対処方法は大いに評価に値します。沖縄は一方的な武力の差とは云え、血を流して占領した土地です。それを返還したのですから、今普天間基地の移転先 辺野古埋め立てでもめておりますが、ロシア式な考えから言えば、アメリカは沖縄を返還するのではなかったとアメリカは思っているかも知れない。
- ・北方四島返還については今はとても返還どころか、一寸たりとも譲歩する積りははないと思うが、私なりに考えるに1980年代あのベルリンの壁が壊され、ソ連がロシアに戻った時、ソ連が大変疲弊していた時、ゴルバチョフ大統領の時、交渉により北方四島をお金で解決できたかも知れないと思うのは私丈の一人の思いかも知れないが。
- ・日本人の気持ちとして元々領土の返還に何故金を出してまでと言う気持ちで実現はしなかったと思うが、交渉として一応打診位はしてもよかったのではと思うのですが、今となっては、遅い、ロシアには四島など返還する意志など毛頭ないというのがロシアの考えでしょう。
- ・先般北海道へ旅行した時、クナシリ島を見ましたが大きな島です。あれが我国の領土であったと思うと、あの戦争で一番領土を失ったのは日本で、ドイツ(独)などは領土はどこにも取られてないのです。
- ・一番領土を拡大したのはロシア、漁夫の利を得たのがアジア諸国、インドネシア、ベトナム、マレーシアなど欧米の植民地であった国々です。中でも一番得たのがソ連=ロシアであり、火事場泥棒のようなもので、戦後になっても復員させず、シベリアへ持って行き、強制労働に使い、寒さと飢えで多くの軍人、兵士を死に

- 追いやったことは許し難い行為である。
- ・日本は太平洋の島々や満州、朝鮮、台湾を失い大損害を受けたのである。それらの権益が如何に大きいものであるか、戦後夫々の国の発展を見れば判ることである。勿体ないことをしたものである。
  - ・明治以来貯えて来た軍備、兵力を一挙にして失い、沢山の生命財産を失い、今日の日本があることを日本国民は忘れてはならないと思います。



- ・然し乍らものは考えようでポツダム宣言を受託せず、徹底交戦でもしておれば今日の日本は無。恐らく一千万か二千万人の民間人、軍人が犬死し各地で降伏し住・食もなく流浪の民と化し、再起不能の日本国になっていたであろうことを思うと、8月15日戦争を終わらせたことは不幸中の幸いであったと思うのであります。
  - ・天皇陛下の御聖断を正しく受け入れた日本人、日本軍隊も偉大であったと言わなければならぬ。其の後外地に居た方々の苦難の道は続く訳ですが、終戦という断を下し、軍も国民もそれを受け入れたことは正解であったと言わざるを得ない。
  - ・反省点は山程あるが、その後平和と繁栄の時期を迎えて今日の日本の祖国が有ることに我々は感謝しなければならないと想うのです。
  - ・「日本国万歳！！。」
- 以上

[あとがき]

- ・今日の卓話は、直接戦争体験された人のみが知る、大変貴重なお話、訓話でした。知識と体験に裏付けられた、命がけの知恵のご披露でした。
- ・その上、この広報誌は元から原稿として推敲を重ねられた、貴重な、幅の広い格式の高いものであります。原稿をそのまま転載させていただきました。
- ・二度に渡り、貴重なお話が聞けました。ありがとうございました。
- ・私達後輩は過去の日本の出来事を、命がけの事実を真正面から受け止め、世界平和と国民の安全と幸福とを追求するとともに、先人のご苦勞に感謝の心を表したいものです。
- ・ポール・ハリスがボストンの年次大会に送ったメッセージがありましたので、出来るだけ早く披露したいと思っております。タイトルは

<p>THE MESSAGE of PAUL P. HARRIS To the BosTon Convention 1933</p>
--

です。